友愛

発行所
友愛青年同志会
東京都文京区音羽7の10
電話 大塚(94)2801
編集兼発行人 水谷 普
定価 1部10円

鳩山会長からビルマ首相へ

"平和は青年の手で"

大平一橋大教授に託す

鳩山一郎会長は十日ビルマのウー・ヌー首相に対して、ビルマと日本の友好促進とアジアにおける国際平和が友愛精神にもとずく青年運動によつて達成されることを希望する旨の書簡を送つた。

この書簡は来る十七日より二十日までの四日間、ビルマのラングーンで開催されるアジア知識人会議に日本からも代表団が派遣されることになつたが、その代表団長として来る十三日渡緬する一橋大学大平善梧教授からウー・ヌー首相に手交されることになつている。日本ビルマとの間にはまだ平和条約が正式に発効していないため、同代表団に対する便宜の供与についても鳩山会長は非公式にこの書簡で同時に要請した。

◇会長書簡要旨

ウー・ヌー閣下へ。来る二月十七日貴国首都において開催されるアジア知識人会議の日本派遣団長大平教授にこの書簡を託します（中略）私は、貴国と日本との友好関係は勿論、新しきアジア各国との国際平和達成のためには友愛精神と民族の平等にもとずく青年運動が促進されるべきことを希望しております。（後略）

なお大平団長には昨夏の本会軽井沢講習会で講師をお願いした【写真は大平教授】

参会者に多大の感銘

炭鉱児童救済募金映画会

前号で報じた"炭鉱の子供たちを救う"ための催しは去る二月一日午後五時三〇分から約千数百名の参会者を得て開催、当局側からは文部事務次官田中〇〇氏が文部大臣の挨拶を代読、労働者側代表としては全国石炭鉱業労働組合中央執行委員長加藤俊郎氏が『この機会に多くの人々に炭鉱の現状とそこに住む子供たちの実際を知つてもらうことのできるのは誠に感謝にたえない』とそれぞれ大要次の如く挨拶を行つた。

【写真は炭鉱の実情を訴える全国石炭鉱業労働組合加藤中執委員】

◇文部大臣挨拶要旨

本夕ここに『炭鉱のこどもたちを救うための映画会』が催されるにあたつてひとこと御あいさつを申し上げます。（中略）昨年来の石炭業界不況の影響から炭鉱に働く多くの人々が実に気の毒な苦境に立つていることは皆様もすでに新聞やラジオ通じて御承知のとおりであります。ことに就学期にあるこどもたちが学校へも満足に通学できないような悲惨な状態にあることはまことにしのび難い思いが致します。このことに対しては政府の施策としても種々対策が講じられましたが国民諸君の間にも同情に満ちた救済運動が展開されているのでありますが炭鉱地区の窮状は新しい年を迎えていよいよ深刻なもののあることは憂慮にたえません。貴会がこの催しを行われることを聞き私も心から共感をおぼえその成功を念願してやまないのであります。御参会の皆様にもこの趣旨のあるところに御賛成になりますます御協力くださることを願う次第であります。

◇全炭労加藤代表挨拶要旨

本日友愛青年同志会の御好意によりわれわれ炭鉱に働く者の子供たちを救うための催しが行われ、多数の方々が御協力下さいましたことはわれわれ炭鉱労働者として誠に感謝に堪えないところであります。（中略）御承知の如くわが国の炭鉱所在地は福島茨城、山口、福岡、佐賀、長崎の各道県でここに約三十万の炭鉱労務者（鉱外勤務者を除く）働いております。資本別にみますと大手七十九社、中小五八九社（二十九年十一月現在）となつており、これは昨四月からは大手一社、中小十四社が廃鉱しているのであります。

北海道でも

募金映画会

本会の北海道各地区においては、最近いよいよ活発な動きをみせているが、今回の炭鉱児童救済の催しについて、特に同地が炭鉱地帯を控えているだけに、深い関心を示していたが、たまたま同地の吉川昭市幹事が上京していたので、北海道においても同種の催しを開きたいとの意向が述べられ種々打合せを行なつた、同君は去る二月一日帰道し、早速各地区の同志と連絡具体的な開催方法について話し合いを進めている。

開催地・開催期日等については同君が滞京中に述べたところによれば、出来得れば札幌を選び期日も二月中に決めたいとのことであるなお本部においてもこのような傾向に注目、今後も催し物のいかんを問わず、地方独自の力で行うように積極的な方策を打ち出して行きたいと考えている。」

友愛外交に期待

國交調整は話し合いから

民間における国際的な 交流は最近とみに活発になり、学術・文化は勿論貿易の 面にもあらわれてきた。またこれとは別に青年・学生の間にもこの動きはみられるところで、政府の顔色なしの感があつたが、鳩山内閣の出現により本格的な外交が期待されるようになつてきた。

対ソ国交調整並びに日中国交回復の問題をはじめとして、日韓関係の解決、東南アジア諸国に対する賠償問題の処理等、今後の外交方針の積極性がうかがえるものであるが、いわゆる鳩山友愛外交の基調となつているものは話し合えばわかるという、外交についての根本精神に貫ぬかれているといえよう。

この一見わかりきつたことのようなものが、いままではあまりにも無視されていたのではなかろうかいやしくも国と国との交渉であるかぎり、各々の立場もあり、それにまつわるいろいろな難関もあることはもちろんであろう。

例を対ソ国交調整の問題についてみても、はたして日本の望むような結果になるかどうかは計り知れないものがあり、特に 平和 共存の外交路線を進めていた、マレンコフ政権の更迭によつて、ソ連の対外政策の硬化が予想されているときでもあることを考え合せるならば、たしかに前途は容易ならざるものがあろう。

さきに友愛革命の提唱者カレルギー伯は"平和宣言"を発表して東西の平和的共存について強く訴えているが、その中で『交渉こそ平和の道である』とし『いままで無視されていた共存えの試を大胆に推し進めるべきである』といつているのである。

今回のソ連政変はこの問題を推し進める上に暗影を投じた感がなきにしもあらずであるが、ドムニツキー文書、中ソ対日共同宣言、モロトフ声明などによつて窓は開かれたのである。

敗戦以来外交らしい外交を行なつていなかつた政府が力の背景のない外交を行なうのであるがこの際強く友愛外交を推進することを望むものである。

今まで外交は利害打算で律されるもので親善とか友好とかいうもので動くものではないとされていた一般的通念を打ち破らないかぎり真の平和は確立されないのである。

第二回全國大会召集

昨年五月第一回全国大会が東京において開催され、全国各地の同志が一堂に会して、昭和二十九年度の本会活動に関する種々なる方針を決定したが、その後本部を中心として各地の同志が協力して、これら方針に従がい会勢拡大と強化につとめてきたが、単一全国組織として、わが国青年運動の上に、いよいよ強固な地歩を印しつつあることは誠に心強いことである、同志の結集体も、北は北海道から南は九州まで、全国百余を数えることができるまでになつた。

このように一カ年間の成果は大きなものがあり、今後の発展が各方面より注目されている時、第二回全国大会を東京に召集、新しい同志と共に昭和三十年度の本会の運動方針等を決定することになつた。

二月五日の常任幹事会では、大会期日を五月三・四の両日に、会場は神田一ツ橋・如水会館に決め、具体的開催方法を討議するため来る三月二日に第一回の準備委員会を開くことにした。

選挙の純化につとめよう

さる一月二十五日の常任幹事会は次の如き声明を採択、一般会員及び関係方面に広報した。これはかねて本会で決定していた公明選挙運動推進の今次選挙対策の一環として行われたもので、選挙の純化こそ公明選挙であることを主張している。

◇公明選挙運動に関する声明

汚職と乱闘によつて泥沼と化した日本の政界を今こそ浄化粛清すべき時が來た。

われわれは、会結成以來あらゆる機会を通じて眞の民主政治確立のために運動を展開して來たのであるが、議会政治の重大な危機をもたらした今日こそ特に選挙の徹底的純化の必要を痛感する。再びあの声なき声の怒りを胸に祕めることのないように、権利は常に正しく行使しなければならない。

当選のために手段を選ばぬ候補者はいないか。金権と情実の網はわれわれを取巻いてはいないか。それは明日の汚職の巣窟であり、議会制度の破壊にほかならない。

現在の選挙制度はそれらの可能性を充分含んでいるが、これら可能性もわれわれ一人一人の良心によつて行使される一票により断つことができるのである。

古諺にいう"ローマは一日にしてならず"と。しかし一日の集積こそ重要なのである。一日一日を選挙の純化に努めよう。われわれは二月二十七日における一票の行使を重視する。眞にわれわれのための政治が行われるためにも正しい選挙権の行使を念願するものである。

昭和三十年一月二十五日

友愛青年同志会

世界学連代表來日

全学連系に対抗か

さきに世界民主青年連盟（WFDY）の代表の来日があり、わが国青年運動に国際的な一つの波紋を投じたが、これとは別に西欧諸国が中心となつて組織している『世界学生連合連絡事務局』（コセツク）代表の来日が見込まれている。現在わが国の学生組織は『国際学連』につながる『全学連』によつて国際的には知られているのでコセツクとしても日本の他の学生組織を加盟させ国際学連に対抗させたい意向であり、今回の代表派遣もその調査をするのではないかとみられる。なお代表にはコセツク調査委員M・ラジヤブ君（前インドネシア学連副委員長）が予定され、本年二月下旬には来日することになつている。

私学連総会

奨学金問題等討議

"青学懇"参加団体である私学連（全国私学学生自治会連盟）では先に全国三十八校の私立大学学生代表を集め『私学振興総決起大会』を開催しその活動が注目されていたが、去る一月二十四日十一時半より東京の日本大学本部第三会議室で定期総会を開いた。

総会はさきの総決起大会において決議された諸問題に関する今までの経過報告があつて後、一般討論に入つた。一、私学学生に対する奨学金交付の増員。一、学生健康保険制度の施行と全額国庫補助の申入れ。一、学生運動のあり方。等について論議されたが、特に来年度の学生運動のあり方として、個々の大学が学生に立脚した問題を解決し一歩々々理想社会に進むべきであるとし、全学連は赤旗をたて運動をしているが、われわれ私学連は各大学がそれぞれの校旗を立てて行いたいとの意見が述べられたことは注目される。

なお私学連で昨秋私学学生の生活実態調査を全国的規模において行つていた結果をまとめて今回出版した。

アジアの友愛促進

印度主催でアジア青年会議

昨夏シンガポールで開かれた世界青年会議（WAY主催）に出席した日本代表が帰途印度を訪れ、全インド青年会議に対し『全アジア青年会議』開催の呼びかけを行なつていたがこの程、全インド青年会議より申入れが、日青協にもたらされ、本年八月にはインドにおいて開催が予定されるにいたつた。これは、国と国との外交の盲点を若さという共通の広場でかため、世界の緊張を話し合いでほぐしていこうとするもので、全インド青年会議の申入れも次のようなことをいつている。

一、全アジア青年会議を八月にインドで開きたい。

一、原水爆禁止を共に世界青年に呼びかける。

一、日印両国青年の友愛と文化交流のため旅行交換、滞在費等についてもおたがいに責任をとりあう

一、インドからは医学と哲学の青年を日本からは農業と工業の青年技術者をそれぞれ派遣する。

というもので、日青協でもこれにもとずき、直接役員を渡印させ、具体的準備をすすめるといつている。

増田氏（賛助会員）

インドネシアえ

本会の賛助会員である増田博久氏（貿易商）は去る一月二十一日午後六時羽田発KLM機で商用のためインドネシアに渡行した。同氏は約六ケ月の予定でインドネシア各地を巡ることにしているが、出発にあたりインドシアの現地状況特に青年を中心とした動きについて随時紹介してくれることを約した。

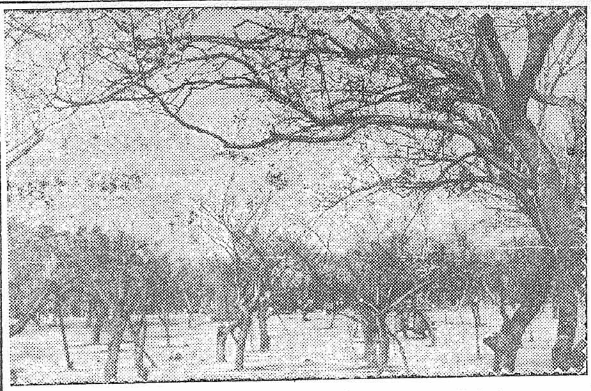
直　言

▼一国の民主政治の度合を計る物差として、よくその国の選挙制度が引き合いに出される。中国から帰られた人の話によると秘密投票ではなくて、投票者が集会において『挙手』によつて代表者を選んでいる由である。文字の書けない人の多い国であるから止む得ないとしても、それで果して『自由』な意志が発表できるかどうか疑問である。まわりの人に気がねと言うこともあろうし、附和雷同ということもある。▼アメリカやインドでは文字の書けない人々の為に『絵』によつて投票している。秘密投票であると言う点においては中国よりすぐれている。然し、日本でも、田舎ではボスがにらんでいて『誰が誰に入れたか』が分かつてしまうしくみになつているところもあると言うから、制度も運用如何と言うことになる。▼然し、税額によつて選挙権を決めた時代や、普通選挙から今日の男女平等の投票権の制度まで、日本も長い民主政治をかちとる闘争を経験して来た。二月二十七日の選挙日には、この闘争に戦つた人々や血を流した人々に感謝をこめて一票を投じなければならぬ。▼主権者であつても実際にその権利を行使するのは投票の時以外にないと言うのが残念乍ら日本の現状である。この現状をよりよくする為にも、正しい投票が望まれる。シツカリおタノミマス

"文化"とは働くこと

◇文化の考え方について◇

水谷 普



◇はじめに……

これから述べようとすることは、われわれの友愛運動において文化活動とは、どのようなことを実際に行うのか、という『友愛運動における文化活動論』のいわば序論である。

ここで私がいいたいことは、われわれの運動においては"文化"をいわゆる"文化"というふうには考えないで、友愛運動とは日常の文化活動（これから除々に述べてゆく意味においての）だ、ということである。そのためには、われわれは"文化"についてどのような考えをもつているかをたしかめ、もし、またその中でわれわれは、どんな考え方をとるべきであるかをきめておかなければならない。それがその『"文化"とは働くこと』という文章を書いた目的である。

◇便利な"文化"という言葉

見出しにもある通り、われわれは"文化"とは働くこと、というふうに考える。

普通われわれの周囲でいわれている"文化"という言葉の意味は非常に範囲が広く、しかも多種多様である。たとえば、文化住宅、文化コンロ、文化カマドといつたものから文化祭、文化人、文化国家等々いくらでもあげられるがその一つ一つがそれぞれ"文化"という意味の使い方が同じではないのである。しかしそのいずれの場合にも共通している ものは"文化"という目にみえぬものを『受け取るもの（あるいはこと）』というように考えていることである。文化を一つの教養、身につけるもの、というふうに考えている。いずれにしろ"文化"という言葉は便利な使いやすい、その上この言葉を使うことに何かホコテシサを感じされているような言葉である。

◇本來の意味は畑を耕すこと

ところが、わが国で文化という言葉は、大体ドイツ語からのほん訳であるとみてよく、第一次世界大戦にドイツの学問が移された時に入つた言葉で当時この"文化"という言葉が今日とはちがつた意味で流行語となつていた。その極端な場合は文化住宅に住み音楽を聞き映画を見ることが文化の本来の意味と受けとられていた。しかしドイツ語の"文化"の文字はラテン語にその元があり、この意味は『畑を耕すこと』或は『加工すること』である。つまり自然の原料に人間が働きかけてその結果人間がこれを生活に役立ててゆく、というのがその本来の意味である。われわれも また この意味で"文化"という言葉を解すべきであるそのことから、さらに人間がカラダやアタマを訓練したり働かしたりして知識とか教養とかを積むということにもなる。従つて文化という言葉には人間が自ら労働するということが根本的に伴つているその結果得られたものは、実は知識も教養も文化カマドも主役ではなくワキ役なのである。

"文化"は受け入れたもので何故錯誤が起きたのか？

◇明治政府の文明開化策

元来人間が自ら汗を流して働くことを根本内容とする"文化"が何故文化住宅や電気洗濯機そして教養とか知識といつた身につけるもの、受け とるもの というようなアヤマリが起つたのだろうか？

明治維新の後、政府、民間あげて文明開化を唱えヨーロッパの文物をわが国にとり入れるのに忙しかつたことは小学校の歴史で教えている通りである。しかしわが国ではその形式を表向きにとり入れたのにすぎないのであつて、ヨーロッパの文化は、こつちか追いついた時にはもうズツと先へ進んでいる、そしてわが国の文化は、それに対してうちかつだけのものを造り出してゆくことが、時間的にも能力的にもできなかつた。当時の日本人の生活はヨーロッパ文明を生み出したいわゆる市民社会の生活とは全くかけ離れた封建的農奴的生活であつた。それが第一次世界大戦によつてわが国がおかれた国際的地位の結果、非常な好景気にめぐまれ資本主義も一応の発展をとげたのである。その結果、わが国の社会は本質的には近代資本主義とはちがつているにもかかわらず多くの矛盾をもちながら表向きにはいわゆる市民社会が形づくられ、その生活も成長したのである。そしてその市民社会の生活の土台となつたものは何かといえば、明治以来の借り物のヨーロッパ文化であつたわけである。

◇『受け』いれた文化……

だから、当時われわれの生活が物的に一時向上したため、ヨーロッパの文化がたやすく手に入りまたそれを『受ける』ことができたのである。洋風の家に住みベツトに寝る、コーヒーにトースト、ラジオを聞き西洋音楽の合唱に耳を傾ける。すべてヨーロッパから入つてきたものであり、それをまねてつくられたものばかりであつた。経済的な好景気によつて『受け容れられ』たものなのである。ここに"文化"を本来の意味から受けとめてみるようになつた原因がある。すべてが模倣であり創造ではなかつた。

二つの文化発展説

われわれの考えている"文化"とは一つの点に何時までもとどまつているものではない。

文化の新しい創造の理論に関しては普通二つの説が行われているその一つは『畑を耕す』過程がある時期において一挙に革命的に爆発するというものであり、他の一つは新しい文化は古い文化のうちにすでに根としてふくまれていてそれが徐々に発展してある時点においてその本来の姿をあらわすというものである。

この二つのことは、十八世紀中頃に起り十九世紀のなかばに完成された産業革命の技術発展についていはれている。それは前者によれば蒸汽機関の発明は、単に技術の問題としてでなく自然科学との結びつきによつて解決された。つまり生産部門の革命という現象として突如として行われたとなすものである。後者の説によれば、産業革命はそれ以前の幾世紀間の技術的発展が前段階として行われ遂に完成されたことによつて発生したとなすのである。

この二つの見方は、今日われわれが民主主義における議会制度の規範としているイギリス議会における諸ルールについてもいえることである。われわれは今日のイギリス議会制度がつくり出された過程こそ、われわれ の考えて いる"文化"なのであることを指摘したい。

春に先きがけるもの

こち（東風）吹かば匂ひおこせよ梅の花あるじなしとて春な忘すな

もうじき春になる。今年は、春になる前にわれわれがしなければならない大切なことがある。それなくしては春がこない。絶対にこないのである。

×　×　×

二月二十七日に行われる衆議院議員総選挙こそ、われわれの政治を明るくするために、われわれの国が住みよい国になるために、春にさきがけてなさなければならな試練である。

×　×　×

その試練がキビしければキビしいほど春は明るく 楽しいものになる。そして選良たちには、コチが吹いてもナエが吹いてもアルジである国民のことを忘れないでもらいたい。

われわれの生活の中でガマン強く畑を耕せ！

以上われわれは、少し飽きる位い"文化"ということについてふれてみた。ではわれわれの運動における文化活動とはどんな態度でまたどんな考え方なのであろうかそれは三つある。しかもこの三つの考え方は、会員相互における文化活動と会員以外の普通の人に対するそれとを通じて全く共通なものである。同時にまた、この三つの考え、三つの考え方は、会員であるわれわれの一人一人が身につけ、血となり肉となつていなければならない生活態度でもある。それは何か第一に『畑を耕し』自らつくることであり、第二にガマン強いことであり第三に日常生活に結びついていることである。

第一の『畑』とはどこか。それはわれわれの住む家庭であり村であり町である。そして県であり国であり世界である。学生にとつては学校であり教室である。サラリーマンにとつては会社である。しかし最初は大きいことを望むのではない。まずわれわれ会員の一人一人の周囲だけでよいのだ。勿論自分自身が一番その手近な、一番最初の畑である。この畑で自ら耕してつくるものは"友愛"にほかならない。この場合の耕すとは理解するということであり、自分の血とし肉とすることである。

これがわれわれの友愛運動における文化活動の第一歩であり、またこれにすべてを発しているのがわれわれの運動なのである。これらのことは、いかなる組織であれ、会は本部とか支部とかから与えられたことだけを実行する、という受け身の態度ではなく会員の側から進んで求めることである。従つて地方、地域の指導的立場にある人たちが、会員が求めようとする空気をつくりだすことが義務であり、その能力が要求される。会員以外の人々に対する時にも、このことは同じである。

例えば部落で読もうとする書物の内容、参加者の数、講師を招こうとするならその肩書きとか有名であるとか、こうしたことよりももつと大切なことは、この読書会を開こうとする気持を人々の間につくりだすということである。これはどんなことか。簡単にいえば読書会を開こうといいだした人の立場を尊重することである。その人の主張をよく聞いてやることである。だからといつてその人のまちがつていることははつきりと指摘してやらなければならない。そのためにはわれわれの一人一人がよく耕されていることが必要なのである。われわれはこうしたところから"友愛"の芽を育ててゆかなければならない。この育てることが文化活動であることを理解してもらいたい。われわれの文化活動とは読書会そのものにあるのではなく、読書会を開こうとする気持を人々に持たせることである。

國庫補助が必要

＝高い私学の授業料＝

各大学の入学試験もいよいよま近にせまり、受験する人々の希望と不安の交錯した複雑な顔がみられる季節となつた。また新入生を持つ父兄にとつては今年の授業料が頭痛の種ではなかろうか毎年値上りを続ける授業料についていろいろと批判も起り特に私学については学生の間にすら問題となり、先の私学総決起大会の開催等となつて表われ、授業料問題に対しても熱心な討議がなされたのである。しかし問題解決には国家的な大きな力をもつてしなければ不可能なことは事実で、私学自身のなやみもこの 辺にあるのでは なかろうか、ちなみに今年度の各大学の授業料、入学金、受験料等を前年度とくらべ てみると次の 通りである。

×　×　×

（受験料）

中央・二五〇〇（二〇〇〇）
日大・二五〇〇（二〇〇〇）
法政・二五〇〇（二〇〇〇）
関学・三〇〇〇（二〇〇〇）
東女・三〇〇〇（二五〇〇）
共立・二〇〇〇（一五〇〇）
愛知・二〇〇〇（一五〇〇）
東北学院・一五〇〇（一三〇〇）
国際キリスト・三七〇〇（三四〇〇）
高野山大・二〇〇〇（一〇〇〇）
駒沢・二〇〇〇（一五〇〇）
専修・二五〇〇（二〇〇〇）

（入学金）

慶応・二〇〇〇〇（五〇〇〇）
立教・一〇〇〇〇（五〇〇〇）
日大・一〇〇〇〇（五〇〇〇）
共立・五〇〇〇（二〇〇〇）
東女・一〇〇〇〇（五〇〇〇）
駒沢・五〇〇〇（三〇〇〇）
専修・一〇〇〇〇（五〇〇〇）
愛知・六〇〇〇（五〇〇〇）
東邦・二五〇〇〇（二〇〇〇〇）
高野山大・五〇〇〇（三〇〇〇）
東京歯大・一〇〇〇〇（五〇〇〇）

（授業料）

早大
文・二三〇〇〇（二〇〇〇〇）
理・二八〇〇〇（二五〇〇〇）
立教
文・二三〇〇〇（二〇〇〇〇）
理・二五〇〇〇（二三〇〇〇）
日大
文・二四〇〇〇（二三〇〇〇）
理・二八〇〇〇（二五〇〇〇）
共立・二〇〇〇〇（二〇〇〇〇）
聖女・一四〇〇〇（一二〇〇〇）
専修・二〇〇〇〇（一八〇〇〇）
東邦・三五〇〇〇（三〇〇〇〇）
愛知・二〇〇〇〇（一八〇〇〇）
高野山大・一五〇〇〇（一二〇〇〇）
順天堂大・二五〇〇〇（二三〇〇〇）

以上カツコ内が前年度の額であるが、各大学一様に値上を行なつていることがわかりその他に実験実習費や諸経費（学校整備費・学友会・体育会・後援会等）も前年度より値上りを示しており、さらに公然と寄付金をとるところがあるなど、どうしても十万近くの金額がいることになつている。

近大支部発足

役員を決定

関西における、有力なる結集体である。本会近畿大学グループはこのほど支部組織としての諸条件が整つたので、近畿大学支部を結成した。なお一月二十七日の総会において次の役員を選出した。

支部長　土屋 哲二（商学）
副支部長　飯塚 義和
書記　森岡 啓
会計　畑 義雄

公明選挙運動推進

長野縣東信支連

長野県東信支部連合会（十七支部）では去る二月五日同県小諸市原田別館において各支部役員会を開催した。会議は全国友愛連盟委員長並びに評議員の挨拶があつて議長に池内久雄君（丸子町支部）を選出議事に入つた。会は当日迫つた大会を前にして各支部の強化と、公明選挙運動推進について討議がなされ、各支部ともに出来得る限り運動を推進することを決議した。

友愛青年同志会支部規約準則

第一章　総則

第一条　本支部は友愛青年同志会〇〇支部と称し事務所を〇〇に置く。

第二条　本支部は会の目的達成のため支部連合会を補け、所属の地区を統轄する。

第三条　本支部は〇〇（市・区・町・村・学校）に居住もしくは在籍する会員をもつて構成する。

第二章　機関・役員

第四条　本支部に左の機関を置く。

（一）大会　（二）支部委員会

第五条　大会は本支部の最高決議機関であつて所属の全会員並びに支部役員をもつて構成し年一回以上支部長が招集する。

第六条　大会は所属会員の二分一以上の出席によつて成立し議事は出席会員の過半数で決め可否同数の場合は議長が決定する。

第七条　大会は支部長・事務局長・会計・会計監査及び支部委員若干名を選出する。

第八条　大会は各種役員を推薦することが出来る。

第九条　支部委員会は本支部を代表する執行機関として大会の決議を実行する。但し次の支部大会まで緊急の事項に関する決議権をもちその議決事項については大会に対し責任を負う。

第十条　支部委員会は支部長・事務局長・会計及び会計監査・支部委員をもつて構成し支部長が招集する。支部委員会は構成員の二分一以上の出席によつて成立し議事は出席の過半数をもつて決める。議長は委員の互選による。

第十一条　支部委員会は本部 の会務を執行す るため左の部門を置く。

一、〇〇　二、〇〇　……（各部の部長は支部委員があたる）

第十二条　すべて役員の任期は次の年次大会までとする。但し再任を妨げない。

第三章　会計

第十三条　支部費は月額〇円とし本部費支部連合会費と共に納入する。

第十四条　支部の経費は支部費・支部賛助会費・事業益金・カンパ資金をもつてあてる。

第十五条　会計は支部委員会の承認を経て寄付金を受けることが出来る。

第十六条　本支部の会計年度は〇月〇日より翌年〇月〇日までとする。

第四章　統制

第十七条　会員であつて統制保持に関する細則（第三条にふれる行為のあつた場合、支部委員会の議をへてその処置を本部統制委員会に申請しなければならない。

第五章　附則

第十八条　本規約は大会において出席会員三分の二以上の賛成がなければ変更することができない。

第十九条　本規約は制定の日より効力を生ずる。

映評

警察日記

人間味豊かな作品

五社協定のしめ出しによって注目をあびた日活も、そろそろ腰をすえていい映画をつくりだしてきた。〃警察日記〃は、東北の田舎町の警察署を通じて、日々転がりこむ事件と犯罪の中から日常生活を描きだして、笑いの中にもホロリとさす人間味のあふれた作品である。物語は、がんこで剣道自慢の石割署長を始め、人情家で子沢山の吉井巡査、純情で思いやりの深い花川巡査、若い藪田巡査などのいる田舎町の警察署へ、毎日のように様々な人間が登場してくる。

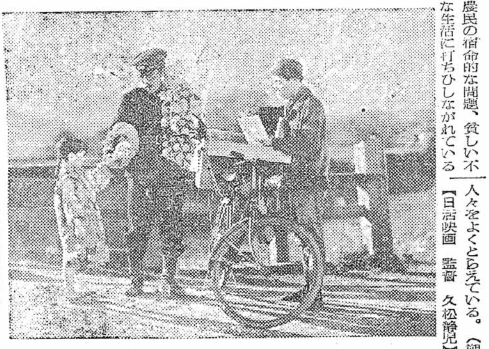
せつ盗の疑いのある桃代、彼女は百姓を嫌って町へ出たが、お定りの堕落。人の良い馬車曳きの岩太がやはり神社荒しの疑いで取り調べを受けている。

駅前には、戦争で子供五人をなくして頭の狂った村田老人が、空襲警報と叫んでおり、その駅前で吉井巡査は赤ん坊と六つ位の娘子を発見、児童相談所、孤児収容所、保健所を廻るが、何とか理由をつけて二人を預ってくれない。結局町の料亭に赤ん坊を六人も子供のいる自分の家に女の子を引きとることになった花川巡査は、もぐり周旋屋杉田モヨに身売りされかかった二田アヤを救い、モグリでも何でもモヨのお蔭で家が助かるのだ、百姓の苦しみなんか警察に解らないと叫ぶアヤに三千円をにぎらせて去ってゆく。亦、水利組合の代表がトラックの乗用を署長に願いでるが許されない、その頃町では錦をかざる通産大臣の帰郷に大騒ぎで消防ポンプまで繰り出そうとしている。その他、万引する親子、家をとび出した夫、金の為に老人に嫁入りする娘等、日常茶飯事の中から人生模様がくりひろげられてゆく、原作が『鶯』を書いた農村文学の伊藤永之介だけに素材がしっかりしており、多彩な事件を井手俊郎のシナリオもよくまとめている、この映画によって吉井巡査の森繁久弥のもつ良さをみなおした人が多いだろうが、ユーモアと哀感をまじえた好演技はしみじみと物語の中にとけこませてくれる。独特のマスクをもつ岩太になった伊藤雄之助も持味をいかしておりスター（二枚目）のいない映画が、かえって各自の味を出していて、署長の三島雅夫、殿山泰二東野英治郎、杉村春子、千石規子沢村貞子等の達者な演技陣に支えられて効果をあげている。

ここで取り上げられた問題は至極ありふれているが、それだけに身近さを含んでいる。どれも見過せない大きな問題である。

とにかく善良な人々を通して、東北農民の宿命的な問題、貧しい不幸な生活に打ちひしがれている人々をよくとらえている。（朗）

【日活映画　監督　久松静児】



【警察日記の一シーン】

友愛外交と現實

日ソ国交調整に関する諸問題

国際法上は戦争状態

◇〃鳩山友愛外交〃によって、長い間もやもやしていた日ソ関係が漸く脚光を浴びることになった。ミズリー号上の休戦協定によって一応、戦火は消えたが、国際法上『戦争状態』がつづいていることになっていて、日本国民誰しもこの『戦争状態継続中』という言葉を聞くたびに、不安な気持に襲われてきた。それがともかく交渉のキッカケが作られることになったこれによって一番安心したのは、実は外務省 そのもので なかったかと思われる。口には『対日理事会』の消滅によってソ連代表部なるものは、何ら法的根拠なきものと強がりをいっても『本国送還』という強制措置に出るわけにも行かずにハレ物にさわるようにしていた手前、やはり内心ほっと一息ついたというところが本当のところではなかろうか。

難問題山積

◇四日の閣議は『日ソ国交の正常化を期するため、これを目的とする交渉に入る』との態度を決定した。この決定の主目的はいうまでもなく法的な戦争状態の終了であるが、これには種々困難な問題がある。曰く、領土問題、通商問題、未帰還者の問題、そしてソ連の拒否権によってダメになった日本の国連加入、さらに附随的には中日関係の問題にも影響してくる。しかしこれらの問題がソ連の『戦争終結宣言』と共に、解決できるかどうか疑問である。法的には、『戦争状態終結宣言』は、戦勝国によって一方的になされるが、それが有効となるためには戦敗国の受諾がなければならない。

この宣言による戦争状態の終結は、『講和条約』と同じ意味をもち、一種の国際的合意（註=参照）である。これは講和条約の締結が政治的に困難である場合に既に用いられてきた方法である。ソ連が前記の諸問題をほほかむりして、単に戦争状態の終結を宣言してきた場合、それをすぐさま喜んで受諾してしまうことは軽率であろう。何故ならば、例えば領土問題をとってみても、現在占領されている千島樺太はソ連領となったことを認めてしまうことになるし日本が現在主張してるハボマイ、シコタンの両島は、いかに千島と別だと言ってみたところであとのマツリという結果になるからだ。ソ連は一九四六年に千島樺太をハバロフスク地方に編入し、同地の交通、金融機関、公共及び産業施設を国有にした。

その後憲法修正によって同地はサハリン州に属することになり、ハボマイ、シコタンの両島もサハリン州にふくまれた。

樂觀は禁物

◇これらの編入は勿論ソ連の国内的措置であって、国際的なものでは断じてない。しかしソ連が今後の日ソ交渉によって、これらの既に『憲法修正』を行い行政区画を定めた地域の放棄を簡単に行うとは考えられない。いうまでもなく従来のソ連外交は『日ソ中立条約』の一方的破棄等をみても、極めて冷たく自国の利害打算をモットーとして来た。勿論交渉のキッカケは、極めて重要であり、従来の暗い日ソ関係に明るさを感じさせる

しかし、問題は、今後にあることを充分注意しいやしくも竜頭蛇尾に終ることのないようにしなければならない。外交は妥協の産物であるとよくいわれる。日本の主張がすべて通るなどは甘い考えであり、日本の現在の国際的地位を『日ソ中立条約』を結んだ頃とはくらべものにもならないことを国民が充分銘記すべきであり、これがあってこそ友愛外交も現実問題に対処して堂々と推進して行くことが出来る。

国際合意の文書形式

◇国際合意の文書の形式には種種あるがそれらの名称を一応参考までにあげると、条約という一般に知られたものをはじめ協約（コンヴエンション）、協定（アグリメント）、取極（アレンジメント）、規約（コベナント又はパクト）、憲章（チャーター）、議定書（プロトコール）、宣言（デイクラレーション）、決定書（アクト）、交換公文（エクスチエンジオブノート）等がある。（国際部調べ）

青年は時代の良心

選挙に私たちは希う

渡邊　昇

青年の肩の荷を重たく感じさせないで

世の中の多くの人々、とくに大人が青年に対して物を言う場合常に『時代の先駆者たれ』とか『国の興廃は青年諸君の双肩にかかっている』等々おだてるにしても、ちょっと大げさ過ぎることを平気で言っているのである。しかしこのことについて一般の人々も、言われた青年自身も少しも大げさなどとは感ぜず、その言葉に酔うことさえあり、至極当然と思っている。

たしかに青年の生活には、いつも新鮮な香気が高くただよい、水々しい活気に溢れていなければならないであろうし、私達自身先駆者的な役割をはたしたいと考えているが、どうしいき目に観てもそのような気分に満ちた生活をしている人々は多いとは言えない。正直なところ国の興廃が私たちの肩にかかっているなどと言われれば、まったく重たくてやりきれないと言う人が多く出て来るのではなかろうか。

このことは、私たちが時代の先駆者たろうにもなりえない現状即ち『青年よ起て』と言いながら青年の気持を率直に受け入れようとしない大人の社会が、強く行くてをさえぎっているからなのである。大人の私達に呼びかける〃ところし文句〃の裏をかえせば『青年は常に時代の犠牲となれ』と強いているとしか受けとれないのであって、どうにもならない絶望の念をいだかせ、懐疑と虚無の世界をさまよう青年を生みだし、一方には快楽に逃避してしまう、結果になっているのが現状である。事実はどうであろうとも私たちはすきこのんで懐疑のかげにかくれたり、虚無の世界をさまよい、快楽えの逃避はしたくないのである。いつの世でも青年は時代の良心が要求するところえと進んで行きたいのが本心なのだ。

青年自身も考えよう

ちょうど現在は衆院選挙の時期でもあり、この春には地方選挙も引続き行なわれるので、またぞろ青年は、大いに持上げられるであろう。各政党は勿論各候補者に至るまで青年に期待すると言い青年のための施策を盛り沢山にならべ、私たち の幸福を保障す るわけだが、話しを聞けば聞くほど青年のいだいて いる不安など ばけし飛び、いまにも青年の社会が出来上るのではないかと錯覚さえするのである。

だれもが青年を大事にし私たち自身もそのようであってほしいと望んでいるのに、いつも不満であり不平をいいたいのである。とくに選挙の終った後などは絶望感をさえ持つのである。これはたしかに変であり、どこかが狂っているとしか考えられない。

若さによる無思慮からか、青年に不平・不満はつきものであり、私たちが大人たちをあまり攻めるのがまちがっているのだろうか、人間として完成されていない私たちは多くの人々より指導され鞭撻されなければならないであろうし、いたずらに大人に対し反発する理由はどこにもないのである。だがやはり納得出 来ないこと が多すぎる。世界の多くの国々の青年がのびのびとして青春を謳歌し、将来への希望をもって学び働きつつある様を聞くにつけ、ますますおかしい気持になる。

この選挙ではそのようなことがないことを希うものであるが、私たちも自己をふり返ってじっくり考え、このように狂っているとしか思われない状態を解決する方針をたてよう。

（筆者は本会事務局長）

第六講

友愛社会の構造

『友愛社会における理想的な社会構造は人間と言う同じつながり[illegible]ける濃淡の異なった同心円として理解される』

中央教育指導部

友愛における『人間』の問題は既に五回にわたって申し上げて来たところで、よくお判りになったと思いますが、本講では、そのような『人間』が、その相互において形造っている『社会』の問題について考えて行こうと思います。

前講で『友愛運動は人間の間の平和運動である』ことを説明し、世界永遠の平和は『国家』と『国家』の間の共存によってではなくして『人間』と『人間』との平和的共存によってもたらされると申し上げました。ところが、其ような『人間』と『人間』との平和的共存関係は深く考えてみますと、現在の世界の状勢から見て、むしろ抽象的な感じが強いと言うことが、指摘されるに違いありません。現実の世界の構造は、事実上『国家』と『国家』との対立抗争乃至は併存の関係に ありまして、私達が追求しなければ ならない『人間』と『人間』との結合関係は、それらの間に横たはっている国家関係、社会関係によって、常に阻害され、遠ざけられていると言っても過言ではありません。言い換えますならば『人間』と『人間』との結合関係の前に、民族であるとか、人種であるとか、宗教の違いであるとか、地域的な居住地の遠隔とかによって、そして更に『国民』と言う名称によって遠ざけられていると言うことであります。そしてもっと根本的なことは一方では『男』であると言うこととそして他方では『女』であると言うことによって差別され、甚だしい場合には女性は男性にくらべて階級が一段下であると言うような極端な例さえ見られるのであります。我が国では最近この性の差別と言うことが除々に改まって来つつありますが、未だにこの古い意識が強く残っているところもあると言うことは否定できない事実であり、更に外国、特に未開発地域と呼ばれる国々では、まだ極めて強固な意識として残っているのであります。

これらの人間と人間との結合関係を阻害する要素、そして人間をとりまく様々な社会関係、これをどのように考えるか、どのようなものにしなければならないか、これが、ここで申し上げようとする『友愛社会』の構造の問題であります。

この問題を考えるに当ってまず第一に友愛社会では、社会と言うものをどのように見るかが問題となるでありましょう。それはあくまでも人間を中心とした、人間を第一義に考える社会であり、『社会のための人間』でなくして『人間のための社会』であります。この『社会のための人間』と『人間のための社会』と言う二つの言葉の意味もよく考えていただきたいと思います。この二つの言葉の違いが、前者はカレルギの説く『全体主義的国家』通じ、後者が『全体主義的人間』の社会に通ずるものであるからであります。友愛社会は『全体主義的人間』の社会であります。

カレルギは 人間と社会との関係について 次のように言っています『人間から宇宙に至る道は同心円を通じて導かれている。即ち人間が家族を作り、家族が自治体を作り、自治体が郡を作り、郡が州を作り、州が大陸を作り、大陸が地球を作る』のであると。

ここで説明されている重要な点は、人間と社会との関係は『同心円』をなすと言っているところであります。抽象的でありますが分かり易いのでカレルギのこの説明をかりて敷衍しますとここに一つの同心円があるとします、この同心円の中心は人間であり、それを取りまく第一の円は家族であります。そして順次に人間をとりまく様々な社会が円となって重なっているのであります。この友愛社会構造に於ては村や郡や県は一つの円として理解され、国家もまた一つの円として理解され、国家もまた一つの円に過ぎないものとなるのであります。それで人種の差とか民族の差はどうなるか、これについて考えてみませう。今ここに、仮りにこれら様々な円に水色をつけてみる事にしましょう。大小さまざまの水色の円を用意しそれを円の中心に合はせて重ね合はせてみます。最も濃い水色は家族であります、次に濃いのは次の円である親族或いは村であり町であります。こうして一番外側の地球の円が最も淡い水色であります。かくて友愛社会の構造は、すべてが人間という一色によって、濃淡の差はあれ統一的に理解されるのであります。ここでは抽象的に水色の同心円というものをかりて説明しましたが、具体的にそれを皆さんのまわりを取りまくさまざまな社会というものを考えていただいても、充分お分りになることと思います。

すべての人間は、同じ人間として同じ立場において（同じ色によって示されるように）平等であるべきであります。

白色人種、黒色人種、黄色人種の差はすべて人々の意識から消え同じ『人間』として相互に理解し会うべきであり、ただその相互の社会関係が、地域的あるいは歴史的関係によって濃淡の差が出来るのであります。これを基として考えれば人種の差はこの人間関係を阻害するものとはならないはづであります。

国家についても、なお一つの人間をとりまく円として理解することによって同じ人間によって構成されている限りにおいて、世界的な人間の結合関係をさまたげるものとはならないのであります。勿論友愛社会においては国家と国家との差、国民としての意識を全然なくしようと言うものではありません。同じ色の濃さにおいてつながっている限りにおいて『人間』の新なる幸福を助ける手段として当然認められなければならないのであります。然し日本も米国もソ連も、英国もその他世界のすべての国が、人間と言う同じ色によって構成されているが故に、その間の平和的共存は可能であると言うのであります。この友愛社会の構造こそが、我々の運動によって達成しなければならない究極の理想であります。

カレルギが同心円の友愛社会の構造を説明するにあたって、人間をとりまく社会として第一に家族をとり上げていることにまた重要な点であります。家族は夫婦のつながりを基本といたします。

そこでは人間社会の第一の単位として家族を、そして男性と女性が平等の立場に於てつながるという意味で極めて重要な社会であります。

そしてまた両性の階級的な差別は否定されなければなりません。婦人問題については既に第二講で説明いたしましたからここでは改めて述べませんが、性の差別は友愛社会に於ては、その第二の単位ー家族（家庭）に於て否定されねばなりません

最後にこの友愛社会の同心円の構造は、あくまでも理想でありまして現実のものとの差の甚だしく違っている点は勿論あります。然し友愛社会が究極にはどのようなものになるかと言う質問が多数あり、本講で理想として一応説明しなければならないしそして又今後の会の活動に於て、どのような社会が最も理想的なものであかると言う問題を提出する意味において敢てここに述べた次第であります。この点をよくおふくみ置きの上、いろいろな研究会において論じていただきたいと思います。

（次号ではこの友愛社会の構造を基にし、カレルギの説くヨーロッパ連邦、更に世界国家について説明し、そこで再び国内の問題にかえることにいたします）

初の縣連結成へ

岐阜縣　準備委設置を急ぐ

中濃支部連合会の結成、大垣地区をはじめ各地の会員との連携強化の気運が高まつて来たので岐阜県下の各支部を一丸とする県支部連合会結成も近い将来の感があり、本会地方組織の充実もようやく軌道に乗つてきた。

中濃支部連合会結成

岐阜県関市・美濃市・武儀郡下の会員を糾合して結成のはこびに至つた、中濃支部連合会は既報の如く一月三十日午前十時より渡辺事務局長並びに奥田組織部長が出席関市公会堂において結成大会は開かれた。なお当日同県大垣地区の大森繁夫君他二名の同志もかけつけ、同支連の結成を祝した。同支連の当日までの会員数は八十六名であり役員は次の通り決定をみた。

支部連合会長　河村　成勝
副支連会長　岡田　徹
同　大野　晃
事務局長　小川　俊明
会計　相宮さだ子
支連事務所　岐阜県関市本町四　万年堂内

盲学生も参加

＝記念弁論大会＝

中濃支連結成を記念して行なわれた鳩山会長杯争奪青年弁論大会は結成大会終了後同所において開催されたが、この催に対する反響は予想外に大きく、参加希望者も二〇〇名の多きに達し選考によつて六十四名にしぼつたほどである。参加者の中には岐阜盲学校より田中一三・塩谷進の両君が友達に守られながら登壇、正常な人々に負けない熱弁をふるい、田中君は入賞の栄を獲得し、聴衆に多大の感銘を与えた、又遠く名古屋より参加した橋本文男君も地元の人々をしり目に入賞するなどがあつた。全員の弁論終了をまつて上位十名が選ばれ、速席弁論をもつて最終順位が争そわれた結果『道化役者たらんとして』の演題をもつてのぞんだ高井正文君（関高校・本会々員）が一等になり、鳩山会長杯を獲得した。

なお同弁論大会は岐阜タイムスの後援になるもので、関市長もわざわざ賞状を出して下さつた。

（記会弁論大会入賞者中央カツプを持つているのが一等入賞の高井君）

選挙も中盤戦をむかえ、これに対する人々の関心もようやく高まりつつある。今朝なぞN駅前の広場で八時ごろから演説をぶつていた候補者もあつた。寒いのに大変なことだ。心から御苦労様といいたいところだがそのまえに、一寸一言。

願わくば、そのエネルギーを選挙後までも、ずうつと持つていて頂きたい。何もそれは議会内で華々しく格闘せよというのではない。選挙前の公約を単に口約だけでなく、ほんとに実行して頂きたいということだけだ。口から出まかせや、選挙の時ばかりの平身低頭にはもうあきた いかがわしい抽象論は誰にもいえる。今のわたくしたちには、そんな空論は馬の耳に念仏も同じこと。ひもじい人は、もつと米をと思うし、借金に苦しんでいる中小企業者は金が欲しいと思うだろう。

間借の夫婦は、ほんとうに自分たちの家に住みたいだろう。あまり多くを望むことは、所詮無理かも知れないが、せめて、国民の生活の基本位は、安全なものにしていただきたい。けんかの強いの、ヤジのうまいの、代議士の種類にもいろいろあるが 要は、彼らがその公約を実行出来るかどうかにかかつている。（吾太）

早期設置を

大垣地区・大森君意向表明

中濃支部連合会結成によつて岐阜県下の友愛運動もいよいよ活発になつてきたが、結成大会当日、同県大垣地区より参加した大森繁夫君等との連携によつて、全県下えの発展が期待されるに至つた。即ち、当日の結成大会終了後中濃支連幹部と大森君等は、本部の渡辺事務局長、奥田組織部長を交えて今後の岐阜県における組織拡大方式について話し合つた。大森君等は、岐阜市・大垣市を中心とした本会の拡大の見通しを述べ飛騨地方とも呼応して岐阜県支部連合会の早期結成を進めるべきであるとし、本年三月中には結成準備委員会を設置したらとの意向であつた。なお当日はこれについて結論は得られなかつたが、岐阜県におけるこのような動きからして今後共同県下の会員相互の連携強化は重要であり、特に現在結集している中濃支連と大垣・岐阜グループとの一層の連携強化を本部は要望した。

東西共存は夢か

ソ連政変と対外政策

▼八日のソ連邦最高会議において、マレンコフ・ソ連首相はみずから辞任を申出それが承認されると同時に後任首相として国防相のブルガーニン元帥が指名されこれも承認された、そしてマレンコフ前首相は副首相兼発電所相として政府部内にとどまることになつたのである。▼いままで粛清・追放はソ連政治のつきものであると考えていた多くの人々にとつてこのような形式で政権移動がなされたことは全く予想の外であり、現に会議場に居合わせた各国の外交官や記者連も一瞬がくぜんとして驚いたと伝えている。さきごろ、ミコヤン商業相の更迭がありスターリンの死後外には東西共存政策を打ち出し、内にはバター政策とも云うべき一般消費物質の増産等内外共に緩和政策を推進していたマレンコフ政権に、多少の行づまりを感じさせたが、マレンコフ首相みずから失政をみとめ、声明まで発表して辞任しなければならない結果になつたことは、東西の平和的共存が叫ばれている現在まことに皮肉と言わざるを得ない。▼ここで問題になるのは、本年一月二十五日ソ連共産党中央委員会でフルシチョフ第一書記が『資本主義諸国が戦争準備に狂奔している時、ソ連が重工業第一というマルキシズムの鉄則をまもらなかつたことは重大なあやまりである』と述べマレンコフの緩和政策を非難したことが重視されなければならない。また後任首相に指名されたブルガーニン元帥が軍部を背景としていることも合せ考えるならば、今後のソ連政権の内外に渡る政策が必然的に硬化してくるのではないかと予測される。▼その表れとしてソ連の新年度予算における軍事予算の大幅な引上げによつて内には軍備強化政策の推進がはつきりと示され、マレンコフ首相辞任後になされた、モロトフ外相の世界情勢一般の説明とソ連外交のあり方を明らかにしたとき、いままでにない強い調子をもつて従来の線を主張していることによつて外に対しても強い態度でのぞむことが示された。これについて、世界各国の反響もほぼ一致して、スターリンの歩んだ道すなわち軍備強化、重工業中心主義えの復帰とこれを強行するために独裁的傾向を強めるであろうとみている。かつてスターリンは『ソ連は西欧諸国より五十年おくれている、これを十年以内にとりもどさねばならぬ』と言い、相次いで五カ年計画が強行されていつたのである。また敗戦前の日本のおかれていた状態を今想い起すと、それを強行させた理論はどうあれ現象面においては全く同じことが云われるのではなかろうか、先進国に伍して行くには軍備の拡張が第一義とならざるを得ない世界であつたことは、今も昔も変つていないとすれば最近高まつた平和共存の理論も一時のまぼろしにすぎなかつた感がある。

▼ではなぜソ連は緩和政策を修正し、東西共存の可能性に対し水をさしたかが問題になるのである。原子力の利用さえ出来得る現代において、国と国との関係が力の背景なくしては成り立たないのであろうか、人間と人間との間に友愛があるように、友愛外交が国際問題を解決する基調にならないものだろうか、とくにわが国において鳩山新政権が日ソ国交回復問題をはじめとして友愛外交を推進させようとしている時に、今回のそのソ連政変は、力の背景のないわが国の今後の外交方針に重大な影響を与えることを予期しなければならないであろう（辺人）

友愛の歌声も高く

◇冬期講習会参加記◇

ほんとうのところ、赤倉のリフトから降りて真白な雪の斜面に立つた時、私は口もきけない程、寒さに参つていた。見わたす限りの銀世界をながめながらゆつくりと登るリフトの壮快味は、妙高の頂上から左なぐりに吹きつける雪まじりの風によつて全く消え去り、ふるえる歯をかみしめているのに精一杯であつた。この時私の耳に響いて来た歌声があつた。『友愛の歌』であつた。それは風の中で時々途切れながらも、力強いそして誇り高い清冽な響を私に伝えた。

この文章を読んで下さる会員の方々、そして妙高に集つた人の忘れ得ぬ方々、私は今これを書きながら、あの時の私の感動をもう一度お伝えしたいと思う。リフトの終点から激しい横なぐりの吹雪の中であの歌声によつて私が今こそ友愛の同志は登りつつあると考え幾度か勇気づけられた時のことをそれは苦しい道程であつた。雲にうずもれた北海道から来られた人々は雲の中を登り、トンネルをこえて、更に雲の斜面を行くこの長い行程を多くの不満をもつて歩まれたと思う。わざわざ妙高まで来て『スキー』でもあるまいと考えられたことであろう。然し東京からの人々にとつて、そして関西方面からの参加者にとつてそれは矢張り一年一度の楽しいスポーツなのである。今度の講習会の目的は、はつきりしなかつたかもしれない。スキーをしに来たのか講習会に来たのか分らないと考えられたかもしれない。然し妙高の今度の四日間は、私にとつて過去の三回の講習会にも増して深い感動に満たされた期間であつたと思うものである。

友愛は自己の尊厳さの自覚を説くと共に、他人の人格を尊重すべきことを教える。私は北海道の方々が、半ば食傷気味のスキーをはいて私達と共に競技を楽しまれたことを思い出す。東京からの参加者がスキーにつかれた眠い目をこすつて、講習に聞き入つていられた姿を思い出す。すべて友愛のあたたかいつながりなしには出来ないことである。スキーをしたい者としたくない者、講習を聞きたいものと、遊びたい者、それが共に過した四日間の意義は、或る意味で友愛の象徴であつたように、私は思う。

友愛の運動が全国にひろがるにつれ、ある地方の特殊性が、他の地方のそれと利害を異にする場合が次第に多くなるであろう。然しそれを越えるものは、人と人のあたたかいつながり以外にない。こたつを囲んで全員そろつて歌つたあの歌を 想い 出していただきたい。その歌声は燕温泉の雪にかこまれた湯けむりの中に消えて行つたけれども、そして共にすべつたゲレンデの雪は春と共に消えてしまうけ れども、お互の 心の中には、そのひびきがいつまでもいつまでも残つていることを考えていただきたい。それが妙高の四日間に結ばれた友愛のきずななのである（深津記）

【写真はスキーを楽しむ参加者】

再編進む

東京各地區状況

東京都内における組織の再編計画は昨年十二月以来各地区の会員有志によつて進められているが、本部でも各常任幹事が在住する地区をはじめとし、とくにかつて結成大会までもつた地区に重点をおき、第二回全国大会までに再編を完了することにした。

【杉並地区】

本会結成後トツプを切つて支部結成を行なつた地区であつたが、その後、活発な動きをみせずに今日に至つているが、同地区より昨年来新らたな同志の入会が引続き再建工作が進められることになつた即ち荻窪を中心として在住する長尾博司君・駒巻文雄君等は本部と連絡をとりつつ、いままでの組織を再編しつつ、より強力な支部組織の確立を進めている。とくに本部では水谷常任幹事が杉並に在住するので、その掌にあたらせると共に、阿佐ケ谷在住の坂場幹事（当初の杉並支部長）を通じ旧会員と新会員との完全なる交流を計ることにしている。

【中野地区】

支部組織はいまだないが本年三月を目標に同地区内に散在する会員を集め強固なる結集体を作ることにしている。同地区には、渡辺・川手両常任幹事が居り、淵井幹事をはじめとして会員も十数名在住しているので、第二回大会には地区代表を出せることが期待される

【新宿地区】

かつて支部結成気運の最も盛んであつた地区で、結成準備の会合もしばしば開かれていたが、同地区全会員との連絡が完全でなく、当初準備委員として動いていた人々の不始末等にわざわいされ、ここ一カ年というものは全く沈滞していた。而し現在残つている会員によつて過去のことにいつまでもこだわらず、再建にのりだすべきであるとの声が起り、二月中には支部結成準備委員会の設置をおこないたいと張切つている。

【駒込地区】

城北連合会中最大の会員をようし同地区独自で催し物等も行なつていたが、城北連合会の事実上の解散により、自然的に本部との連絡も行なわれない結果となり、現在では独自での会合も開いていない状態であるが、最近同地区の副責任者であつた花山学君との連絡が行なわれ、具体的再編方式について話し合いが進められることになつた。

以上各地の状況を記したが、結成当初の組織方針のあやまりも第一回全国大会において修正された組織活動方針によつて現在は各地とも組織化されているので、再編完了後はすつきりした形の支部が出来上るので今後の東京各地区の動きが期待される。

友愛文化部案内

本会では会員相互の知的向上をはかり、リクリエーションをかねる意味で次のサークルを設けてありますので、新入会の方々の参加をお待ちしています。

サークルは（A）研究会サークルと（B）リクリエーションサークルの二つがあります。

A　研究会サークル

研究会サークルには次の三つがあります。

A、友愛と民主主義研究会 ―本会の発足とともにもうけられたもので、カレルギーの『自由と人生』（鳩山一郎訳）をテキストにしています。講師には日本大学百々研究室深津栄一氏（国際法）が担当しています（毎月一回開催）

B、自衛と憲法研究会 ―いまさらくどくどしく述べるまでもありません。われわれの自衛とわれわれの憲法について研究するために設けられています。講師としてその道の権威ある方にお願いしています。（毎月一回開催）

C、農業問題研究会 ―わが国の農家人口は全人口の40％を占めています。その上農業問題はきわめて複雑多岐でありこれを適確に把握することはわが国の政治を理解する上に必要なことでしよう。既に元農林政務次官平野三郎氏、日本経済研究所主任研究員一瀬正幸氏、農業朝日編集長宗友重孝氏、NHK農事課田涌修氏などから有益な講義を受けています。（毎月一回開催）

B　リクリエーションサークル

これには次の六つがあります。

D、山友会 ―山登り・ハイキングを趣味とする人達の集まりでアルピニスト級から散歩クラスまで、とにかく歩くことをいとわぬ人達が集まつています。伊豆一周の旅、武蔵野散歩などを行いました。（責任者、増田裕二）

E、合唱団 ―毎週金曜日に練習しています。現在男女ともで三〇人。特に女性の参加を歓迎するよし。会費月五十円。（責任者・早川忠光）

F、俳句会 ―毎月十五日までに友愛俳壇に官製はがきで投稿して下さい。一人一回五句以内、入選作は翌月の機関紙に掲載。選者斎藤青路、内山一草堂。添削希望者は同じく友愛俳壇まで返信料封筒同封のこと。句会は隔月一回開催（責任者・菅沼東舟）

G、文芸部 ―同人誌『逆流』を発刊しています。毎月二十五日が原稿締切。未発表文芸作品の投稿歓迎。但し掲載は厳選します。同人十一名によつて運営、同人加盟は全同人の推せんによります。（責任者・中村勇一）

H、弁論部 毎月二回の練習を行つています。優秀者は適時地方遊説に派遣します。顧問に中日弁論会理事長河村友夫氏をお願いしています。（責任者・折戸博司）

I、スキー部 ―毎冬妙高つばめ温泉に合宿します。初心者歓迎（責任者・宮沢一英・二十六年度全日本学生選手権保持者）

申込方法 ―ABともに入会と同時にそれぞれのサークル宛申込まれるのが便利です。申込先はすべて本会事務局あてのこと。受付と同時に責任者より詳細を連絡いたします。申込はハガキで職業、年令、経験等詳しく記入のこと。

友愛青年同志会文化部